



鎌倉殿の13人

THE 13 LORDS OF THE SHOGUN

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」
華やかな源平合戦、誕生する鎌倉幕府、
権力を巡る男たち女たちの駆け引き—
源頼朝にすべてを学び、武士の世を盤石
にした男 二代執権・北条義時。野心と
は無縁だった若者は、いかにして武士の
頂点に上り詰めたのか。三谷幸喜が贈る
予測不能エンターテインメント！
放送予定 2022年1月～12月(NHK)

鎌倉殿 富士山麓ゆかりの地

富士山の麓にある4市1町で構成される「富士山ネットワーク会議」。
広域で連携し、よりよい住民サービスの提供に努めることを目的に活
動しています。今回は現在放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(NHK)
が描く時代の各市町ゆかりの地や伝承を紹介します。富士山麓の史跡
などを巡り、激動の時代の片りんにふれてみませんか。

歌川国芳「源平盛衰記 駿河国富士川合戦」
江戸時代 (富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

問合せ／情報発信課 ☎995-1802 ☎992-1546 ✉kouhou@city.susono.shizuoka.jp

富士市

F U J I



▲富士市ウェブ
サイト「鎌倉
殿へのはじま
り」

富士川の合戦の舞台

富士川の合戦とは、平清盛が頼朝討伐のために平維盛の軍を
都から鎌倉へ派遣する際、当時の富士川を挟んで対陣した戦の
ことです。この戦で平家軍は、夜中に行われた源氏の移動によっ
て起きた水鳥の羽音を敵の来襲であると間違え、戦うことなく
西に向かって敗走したと言います。この敗戦は、平家没落の大
きなきっかけのひとつとなりました。

水鳥が飛び立った音に驚いた平家軍が敗走した場所である
「平家越」と平家方が物見（見張り）をした「物見堂」、頼朝が
鎧を脱いで体を洗ったとされる鎧ヶ淵親水公園、13人のうち
の1人である和田義盛にちなんだ地名や神社など市内にはゆかり
の地が数多くあります。市内各所を巡り、富士川の合戦に思
いを馳せてみませんか。



▲平家越の石碑(今泉)



▲物見堂(岩淵)は、市内が
一望できる絶景スポット

富士宮市

FUJINOMIYA



▲「富士宮と富士
の巻狩」動画

やぶさめ 鎌倉殿が伝えた流鏑馬

富士山本宮浅間大社の流鏑馬は、鎌倉殿（鎌倉幕
府の長）となった源頼朝が、富士の巻狩を行った際、
浅間大社を参拝し、戦への勝利と国の安泰を祈願し
て奉納したことに始まったとされています。

流鏑馬は、走っている馬の上から弓矢で的を射る
日本の伝統的な武芸で、平安時代末期から鎌倉時代
に武士を中心に武術訓練として広がりました。

毎年5月5日に行われる富士山本宮浅間大社流鏑
馬は、市指定無形民俗文化財となっています。

富士の巻狩にまつわる歴史や史跡を富士宮市公式
YouTubeで紹介しています。



御殿場市

GOTEMBA



▲御殿場デジタル資料館

御殿場に伝わる富士の巻狩

源頼朝が現在の御殿場市周辺の富士山麓で行った大規模な巻狩は、富士の巻狩と呼ばれています。源頼朝が朝廷から征夷大將軍に任ぜられ、名実ともに鎌倉に幕府が開かれたのは、建久3（1192）年。その翌年、富士の巻狩が行われました。市内には、富士の巻狩やその時代にまつわる旧跡や伝承が数多くあり、富士の巻狩と関係があるとされる地名も数多く残っています。

写真は、臨濟宗の寺院「東岳院」に明治時代初めに奉納された浮世絵師歌川一雲斎国秀作の「源頼朝獵富士野之図」で、富士の巻狩の様子を描いた迫力ある作品です。

富士の巻狩の紹介や伝承などをまとめたマップを市公式ホームページ内「御殿場デジタル資料館」で紹介していますので、ぜひご覧ください。



源頼朝獵富士野之図

裾野市

SUSONO

源頼朝が喉を潤した伝承の残る湧水地 頼朝井戸の森

頼朝井戸の森は、国道469号沿い、十里木高原展望台駐車場から東におよそ600メートル進んだ場所に位置します。建久4(1193)年5月、源頼朝が裾野市域を含む富士山麓で行った大規模な巻狩は、自らの武力を示すためのものでした。そのときに、頼朝が喉を潤すために飲んだとされる湧き水の水源を含む森を、『頼朝井戸の森』と呼ぶようになりました。その水のおいしさに感動した頼朝は、朱塗りの盃を沈めて水神様に献じたと言われています。昭和42年に市指定天然記念物に指定された自然豊かな森には、四季を通じてさまざまな野鳥が訪れ、落ち着いたひとときを過ごすことができます。

十里木周辺には、ほかにも頼朝が富士の巻狩のときに本陣を敷いたとされる御本陣や、米とぎ場（弁当場）など富士の巻狩にちなんだ地名が残っています。周辺には遊歩道や登山道もあります。広大な富士山麓の自然にふれながら、散策をお楽しみください。



▲頼朝の井戸の石碑



▲頼朝の井戸

小山町

OYAMA

ふじわらのみつちか 藤原光親卿の墓

物語のクライマックス、承久の乱（承久3年）のとき、後鳥羽上皇による北条氏討伐の企てに際し、後鳥羽上皇の側近であった藤原光親卿は、倒幕計画の無謀さを憂い、幾度も意見しましたが聞き入れられず、北条義時追討の文書を書きました。

戦後、後鳥羽上皇方の中心人物として参加した光親卿は、公家の中でも最も重い罪に問われ、甲斐の武田信光により鎌倉護送の途中、加古坂（現在の竈坂峠）において斬首されました。義時の長男である泰時は、その死後に光親卿が上皇をいさめるために執筆した書状を目にし、光親卿を処刑したことをひどく悔やんだと言います。

毎年5月に地元の人々により、慰霊祭が執り行われています。



▲藤原光親卿の墓への入口



▲中央の石碑が光親卿の墓